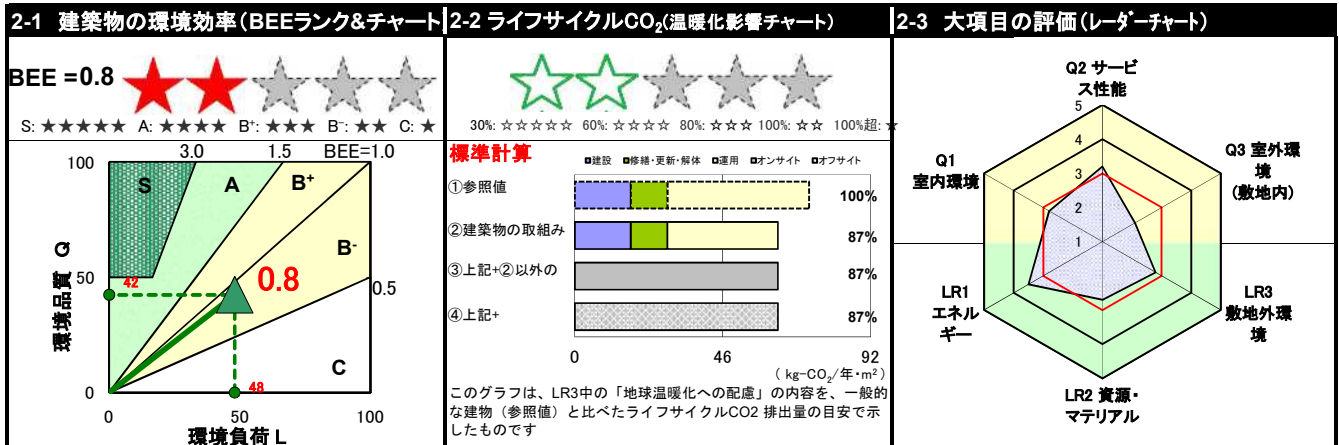


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24015

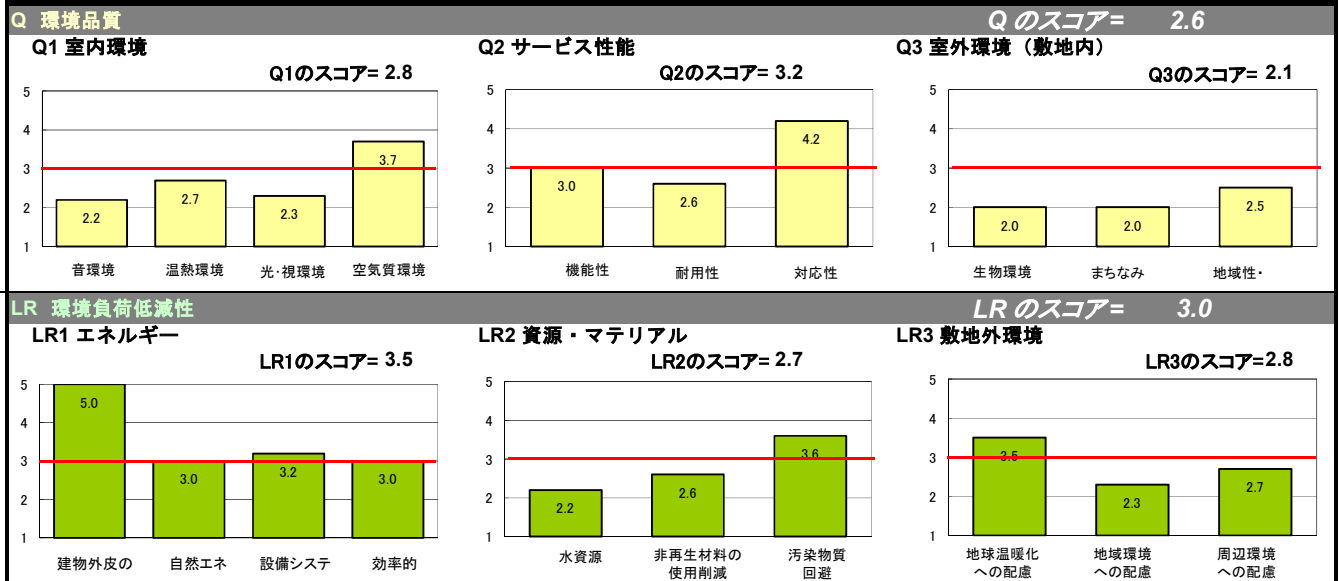
建築物名称	株式会社ダイワコーポレーション 川崎営業所新築工事
建築主	株式会社ダイワコーポレーション 代表取締役社長 曾根 和光
建築物の所在地	川崎市川崎区東扇島26-1
設計者氏名、建築士事務所名	太田 和之 関東建設工業株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	33,533.97㎡
用途	倉庫業を営む倉庫、事務所、その他
構造	鉄骨造 一部 鉄筋コンクリート造
階数	地上7階
工事完了予定年月	令和8年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ダイワコーポレーション 川崎営業所新築工事	階数	地上7F
建設地	神奈川県川崎市川崎区東扇島26-1	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2024年5月17日
敷地面積	8,630 m ²	作成者	太田 和之
建築面積	5,511 m ²	確認日	2024年5月17日
延床面積	33,534 m ²	確認者	太田 和之

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合する植栽を計画した 特になし 敷地内に多くの日影ができるように植栽を計画した	1.7/4.3	2.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	可能な限り敷地内に植栽を取り入れた	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.4
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	特になし 特になし	0.3/0.7	1.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合する植栽を計画した 可能な限り敷地内に植栽を取り入れた	0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI値=0.70 今後太陽光発電を利用予定 BEI値=0.78 運用体制が組織化され、責任者が指名されている	3.5/5.0	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	特になし 特になし 特になし	2.4/4.7	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	可能な限り敷地内に植栽を取り入れた	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	ALC/パネルの為30年以上	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	特になし 特になし	2.0/4.0	2.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	特になし	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合する植栽を計画した 可能な限り敷地内に植栽を取り入れた	0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI値=0.70 今後太陽光発電を利用予定 BEI値=0.78 運用体制が組織化され、責任者が指名されている	3.5/5.0	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	可能な限り敷地内に植栽を取り入れた	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.4**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI値=0.70 今後太陽光発電を利用予定 BEI値=0.78 運用体制が組織化され、責任者が指名されている	3.5/5.0	3.5

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.31		-	2.8
1 音環境						2.2	0.15		-	2.2
1.1 室内騒音レベル					—	1.0	0.40		-	
1.2 遮音					JIS等級 (T-2)を採用する	4.2	0.40		-	
1 開口部遮音性能					—	5.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能					—	3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-		-	
1.3 吸音					—	1.0	0.20		-	
2 温熱環境						2.7	0.35		-	2.7
2.1 室温制御					—	2.5	0.50		-	
1 室温		W			—	3.0	0.38		-	
2 外皮性能					—	1.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性					—	3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御					—	3.0	0.20		-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30		-	
3 光・視環境						2.3	0.25		-	2.3
3.1 昼光利用					—	1.8	0.30		-	
1 昼光率					—	1.0	0.60		-	
2 方位別開口					—	-	-		-	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策					—	2.0	0.30		-	
1 昼光制御		W			—	2.0	1.00		-	
3.3 照度					—	3.0	0.15		-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.7	0.25		-	3.7
4.1 発生源対策					建材は全面的に告示対象外及びF☆☆☆☆を使用	4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00		-	
4.2 換気					換気量が1.4倍以上	3.6	0.30		-	
1 換気量					—	5.0	0.33		-	
2 自然換気性能					—	3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.33		-	
4.3 運用管理					—	3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視					—	3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御					—	3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.2
1 機能性						3.0	0.40		-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性					—	3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画					—	3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性					事務所平均天井高=2.7m工場平均天井高=3.0 リフレッシュスペース1%以上+自動販売機の設置	3.6	0.30		-	
1 広さ感・景観					—	4.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース					—	4.0	0.33		-	
3 内装計画					—	3.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理					—	2.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保					—	2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						2.6	0.30		-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			R		—	3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		—	3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給排水:硬質塩化ビニル鋼管 給湯:一般ステンレス鋼管	4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性					—	1.4	0.20		-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備					—	1.0	0.20		-	
3 電気設備					—	1.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法					—	1.0	0.20		-	
5 通信・情報設備					—	1.0	0.20		-	

3	対応性・更新性								4.2	0.30	-	-	4.2
	3.1 空間のゆとり								5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり							階高3.975m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ							事務所の壁長比率:0.07 工場の壁長比率:0.05	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり							積載荷重最小値は7階加工室4800kN	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性								3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性							—	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性							—	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性							—	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性							—	3.0	0.10	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								—	0.39	-	-	2.1
	1 生物環境の保全と創出				G	W		H	—	2.0	0.30	-	2.0
	2 まちなみ・景観への配慮				G				—	2.0	0.40	-	2.0
	3 地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	—	2.0	0.50	-	
	LR 建築物の環境負荷低減性									-	-	-	3.0
	LR1 エネルギー								—	0.40	-	-	3.5
	1 建物外皮の熱負荷抑制					W		H	BPI値=0.70	5.0	0.20	-	5.0
	2 自然エネルギー利用					W		H	—	3.0	0.10	-	3.0
LR2	設備システムの高効率化					W		H	BEI値=0.78	3.2	0.50	-	3.2
	4 効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	3.0	0.50	-	
	集合住宅の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	-	-	-	
	LR2 資源・マテリアル								—	0.30	-	-	2.7
	1 水資源保護					W		R	—	2.2	0.20	-	2.2
LR2	1.1 節水								1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-	
	2 非再生性資源の使用量削減								2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減					W		R	F=400以上を使用	4.0	0.10	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W		R	—	3.0	0.20	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W		R	—	3.0	0.20	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W		R	—	1.0	0.20	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W		R	—	2.0	0.10	-	
LR2	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W		R	—	3.0	0.20	-	
	3 汚染物質含有材料の使用回避								3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤					W			-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W			3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W			3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境								—	0.30	-	-	2.8
	1 地球温暖化への配慮					W			CO2の排出率87%	3.5	0.33	-	3.5
	2 地域環境への配慮								2.3	0.33	-	-	2.3
LR3	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減							R	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制							R	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制							R	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制							R	1.0	0.25	-	-	
	3 周辺環境への配慮								2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	0.33	-	-	
LR3	2 振動								3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭								3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								1.6	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								1.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								1.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	
	光害対策ガイドラインに準ずる器具を使用								—	—	—	—	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	○	○	-	○	-	-		-		○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	3.0		-	3.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-				-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(-)	窓の日射熱取得率(η)	-													
U値(W/m2K)	窓システム	-								外壁	-			床	-
住戸部システムU値	-									ηAC	-			ηAH	-
外壁UA値	-														
屋光率	0.0%														
自然換気有効開口	0.0%														

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡								
コンセント容	30.0 VA/㎡														
天井高	2.7 m														
リフレッシュスペース	1.0%	レストスペース	0.0%												
想定耐用年数	0 年														
想定必要間隔	10~15 年														
想定必要間隔	0 年														
想定必要間隔	0 年														
階高	3.98 m														
壁長さ比率	事務所:0.07	工場:0.05													
床荷重	4800 N/m2														

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	10%	建物緑化指数	0%												
空地率	###	水平投影面積率	8%	地表面対策面積率	10%	舗装面積率	32%								

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.70	熱等性能等級	等級2 相当												
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡			採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%								
				通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%								
BPI/BPI _m	非住宅 0.78	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW						

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

雨水利用率	0.0%														
特定調達品	-	エコマーク商品	-			自治体指定の特定品目等	-								
使用比率	5.0%														
オゾン層破壊係数	()	地球温暖化係数(GWP)	()												
オゾン層破壊係数	()	地球温暖化係数(GWP)	()												
オゾン層破壊係数	()	地球温暖化係数(GWP)	()												

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	120%	棟間隔指標Rw	0.06												
地表面対策面積率	10.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	0.0%										
見付面積S _b	3.377㎡	越風向と直交する最大敷地幅W _s	90.4 m	基準高さH _b	30.97 m										
緑地	###	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡						